

イースターの喜びを、共に祝えることを感謝いたします。イエス様は、罪人の手に渡され、十字架につけられ、三日目に復活する、と預言されました。私たちは、2020年のイースターの翌週から、「コロナ禍」を経験しました。家庭集会として、礼拝堂に集まらないでください、と呼びかけました。幼稚園を休園し、聖会、キャンプ、キャンドル・サーヴィスを中止しました。牧師を含む多くの方々が、コロナ感染をしました。しかし3年後の今朝、イースター礼拝を共に捧げる恵みに与っています。しかも、4名の受洗者が起こされてです。「見よ、きょうだいが共に座っている、何という恵み」この御言葉を深くかみしめる思いです。復活の朝が、おとずれました。

キリストの復活の信仰を握り、改めて天国の希望を心にいただきましょう。

復活の信仰に与えられる希望

キリスト教の大切な祭事は、クリスマス、イースター、ペンテコステです。その中でクリスマスは最も有名です。神の子が人となられた奇跡ですが、新しい命の誕生、闇に輝く光というメッセージは、ある意味、多くの人に受け入れやすいイメージでしょう。一方で、イースターはどうでしょうか。春の到来、冬の終わり、タマゴやウサギの命の誕生、繁栄というイメージは分かりやすいかな、と思います。しかし、最も大切なメッセージである「死に対する勝利」「復活と永遠の命の証言」については、これは実に理解することが難しいテーマであるといえます。この奥義は、誰もがつまづきを覚える、信仰の高嶺だからと言えるかもしれません。

どんな分野であっても、その道を究めるためには、いくつかの壁を乗り越える段階があります。トレーニングという言葉は、今の自分に満足せず、さらに成長することを目指すことを意味します。事故や怪我を伴う、無理なトレーニングはやめるべきですが、リタイアせずに、忍耐と継続を続け、新しい境地が開けた、その地点に立って初めて味わえる喜びや爽やかさというものもまた、現実には存在しています。

復活は、まさに信仰が、私たちに与える力強さなのです。それは新しい希望です。肉体は死を迎える時、滅びます。正しい人も悪人も、行いに関係なく死は訪れます。その恐怖は、人間にとって最大のものでしょう。ですから何とかしてその光景だけは避けようと、目を背けるのです。しかし、復活の信仰は、その限界ある私たちに、新しい力を湧き上がらせません。それは、目の前の脅威のさらに向こう側に、永遠の命という、新しい世界が存在することを信じることができるようになるからです。

この信仰を得るには、肉体や技術のトレーニングと同じように、近道はありません。そして継続しなければ、徐々に失ってしまうものでもあります。しかし、祈りと賛美と礼拝を捧げる中で得た喜びは、私たちの魂をついに死から救うのです。そして、苦しみの先に、また恵みがあることを信じられる幸いな者とされるのです。